

2年5組 社会科 授業案

授業者 河島 猛史

- 1 日 時 平成25年12月17日(火) 第 時限 2-5教室
- 2 単 元 名 中国四国地方の住民誘致活動をしよう!

～ O・M・O・T・E・N・A・S・H・Iの心で ～

3 単元目標

- (1) 中国・四国地方の各県を意欲的に調査し、その結果分かったことや自分の考え、まとめた内容を、自信をもって発表することができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 多くの情報(資料)の中から有効なものを選び、分かりやすく説明することができる。(技能・表現)
- (3) 他者の考えやまとめの内容を聞いて吟味し、それを自分のものと比べ、よりよい結論を目指して考えることができる。(思考・判断)
- (4) 都道府県の特徴について基礎的な知識を身につけることができる。(知識・理解)

4 単元の構想

(1) 単元観

本単元は、中国・四国地方について、「誘致活動をしよう」というテーマを設定して調査活動を進める学習方法を学ぶことや、その中で、資料の収集・分析、調査結果を自分たちなりにまとめて、言いたいことが伝わるように表現する力を育てること、地域的な特徴を比較したり関連づけたりして、中国・四国地方の特色を理解することなどを指導目標に置いている。

調べ学習の一連の活動は、社会科の学び方、考え方の中核となる最も基本的なものだと考える。そのため、この学習を通して教科書や資料・文献などから必要な情報を取捨選択することや、資料の読み取りの仕方など、調べ学習に必要なことをしっかり身に付けさせたい。また、生徒達は1年生の時にポスターセッションの学習を行って、資料まとめることや仲間に向けての発表を経験しているので、昨年度の学習を思い出させながら進めていきたい。また、自分が担当した県の良さや、そこで暮らす人々の思いにふれられるように授業を進めたい。

(2) 生徒観

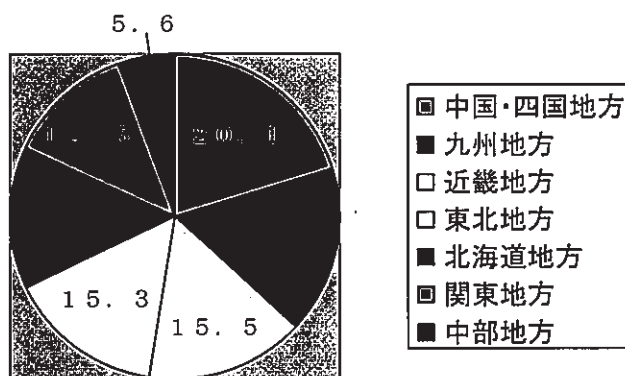
男子18名、女子16名、合わせて34名の学級である。明るく元気な生徒が多く、笑い声が絶えない楽しい雰囲気にも包まれているが、楽しいことに没頭しすぎるが故に時間を気にして行動できなかったり、集中力に欠けたりする面がある。学年の最初から今までずっと、「良いクラスとは、仲間を意識することができるクラス。大切なことは、仲間の話をしっかり聞き、それに対して反応を示すという、コミュニケーションができることだ。それが安心感や信頼感につながっていき、将来働く際に生きる力となる。」と言いつつ、指導をしてきた。朝の会や帰りの会の連絡や、授業での様子を見てみると、最近になって、徐々にではあるが受け答えの仕方に変化が表れ始めてきたと感じている。

普段は非常に活発で、授業中でも進んで発言をしようとする生徒が多い。しかし、その発言内容は決して深くはないのが現状である。本単元の学習を進める中で、調べる力を伸ばすだけでなく、多くの級友の考えにふれ、さらに自分の考えを高めていくという姿勢を育てたいと考える。

右の円グラフは、2年生162人にアンケートをとった結果である。一番数値が高かったのは、中国・四国地方の20.1%で、知識が無い順番も全クラスで一番であった。

この結果を受けて、取り扱う地方を中国・四国地方に決めた。知識が無いからこそ、学習を進めていく中で興味・関心を高めていってもらいたい。そして、自分たちの地方との関わりや違いについて気づかせたい。

あまり知識の無い地方はどこですか？



(3) 指導観

本単元は、「調べ学習」で自分の考えを確立し、「グループ討議」で発表内容と発表方法を練り上げ、「プレゼンテーション」で伝え合い、最後に「個人」に戻すという流れで学習を進める。その過程で、クラスの仲間がまとめた他県の情報や考え方を知り、自分にはなかった新しい知識を得たり、その知識を踏まえた新たな考え方ができたりするような力、そしてコミュニケーション能力を育てたい。また、調べた内容を使って「一番住んでみたいと思ってもらえるプレゼンはどの班か？」という対戦方式で発表することで、生徒の意欲の高まりを狙う。さらに、最後に自分の考えが最初と比べてどう変化したのかを振り返ることで、考えの広まりを実感させ、以後のさらなる学びへの意欲につなげたい。

5 抽出生徒による検証

本実践は、2学年（5クラス）全てのクラスで実施。抽出生徒は担任している2年5組の、下記に示す生徒A・B2名を選び、意識の変容に焦点を当てながら実践を進めた。

	現在の姿	目指す姿
生徒A	自分の考えや思いを進んで発言することができるのだが、別の生徒の意見を受けて、自分の意見を話したり、新たに考察したりといったような、考えを深め合う様子はあまり見られない。	グループの仲間と相談して相手に深く伝えるための資料とはどのようなものかを話し合うことで、良い発表を作り上げていけることに気付かせたい。また、資料作成の際に学び取った知識や力を活用し、自分の考えや意見を簡潔に分かりやすく表現できる力を身に付けさせたい。
生徒B	授業中時々挙手するが、全般的に受け身の姿勢の時が多い。挙手は、一問一答で答えを求めるときに集中しており、自分の考えを述べたり、付け足し意見をしたりすることはしない。	様々な資料から必要な情報を収集し、自分なりのまとめができるようにしたい。そして、自分の学習の成果を、自信をもって発表できるようにさせたい。また、プレゼンテーションの最中も、自分の役割を自信をもってこなし、伝えることを意識できるようにさせたい。

中国・四国地方の住民誘致活動をしよう! ~O・M・O・T・E・N・A・S・H・I の心で ~

<生徒の実態>

- ・穴埋め問題の答えを探して答えることはできるが、資料から必要な情報を探し出しまとめることが苦手である。
- ・自分の考えを、自分の言葉でまとめることや、相手に伝えることが苦手である。
- ・仲間の意見と自分の意見を比較して、考えを深めようとするのが身につけていない。

第1時 『あなたなら、どのようなところに住みたいだろうか?』

- ・旅行のパンフレットを数種類見て、どの場所へ行きたくなったかを考え、なぜそう思ったのか理由を合わせてワークシートに書き、発表しあう。

- ・北海道に行きたい。 → おいしい食べ物がたくさんあるから。
- ・沖縄に行きたい。 → 海がきれいで、美ら海水族館があるから。 など

- ・旅行ではなく、「住むなら」という内容に条件を変え、再び考えて理由を合わせて発表し合う。

- ・東京都に住みたい。 → 日本の首都であるし、文化の中心地だから。
- ・長野県に住みたい。 → 景色がきれいで、空気が新鮮だから。 など

- ・みんなに「住んでもらう」には、どのようなことをアピールしたらよいか、誘致側の気持ちになって考える。

第2時 『各県の誘致委員を決めよう』

- ・前時の最後に考えた、「住んでもらう」ためにアピールしたらよいことを発表しあう。

- ・その土地で採れる有名な食べ物や、つくられている物をアピールしたらよい。
- ・交通の便や環境の面でよいところを調べてアピールしたらよい。
- ・事故件数や事件などのデータから、安全であるかを調べてアピールしたらよい。 など

- ・出てきた意見をまとめ、「風土・環境」「産業」「人口・交通」「伝統文化・特産・名産品」の4観点に分類をして、アピールするポイントを理解する。
- ・地図を提示し、これから学習する中国・四国地方の様子を見て、この地方が環境の異なる3つのエリアに分かれていることを理解する。また、特産物や有名な名所、知っていることなどを出し合う。
- ・自分は中国・四国地方のどの県に住んでみたいかを、ワークシートに理由をあわせて書き、内容を発表しあう。
- ・これから、招致をするためのプレゼンをするを説明する。中国・四国地方は9つの県から成るので、9つにグループを分け、誰がどの県の招致を担当するのかを決める。

第3・4・5時 『担当する県について調べよう』

- ・ 前時に分類したアピールポイントの4つについて、グループ内で担当の割り振りをし、一人調べを行う。調べた内容は画用紙や模造紙にまとめる。
- ・ プレゼン用の発表の原稿を考えるなど、発表のための準備をする。

●調べてまとめる活動をする前に行うこと

- ・ 自分たちの住んでいる県との比較ができるように、4節の中部地方を先に学習しておく。
- ・ まとめ方がよく分からない生徒や、関係のない内容のまとめが行われないように、教師がまとめ方のモデル図を提示し、まとめ方の視点をしっかりと与える。(良い例や悪い例を具体的に指導する)

第6・7時 『プレゼンの練習をしよう』

- ・ 滝川クリステルさんの、東京オリンピック招致の際の動画を見せて発表のイメージをつくる。
- ・ プレゼンとしての山場をつくったり、PRポイントをつくったりと、発表にメリハリをつくる計画をする。
- ・ プレゼンをする上での約束事を示す。

- ① 時間は5分以内とする。長すぎても、短すぎてもいけない。大幅な時間のずれは減点となる。
- ② 班員の全員に役割があり、セリフがあること。
- ③ 原稿にばかり目がいかないように。伝える相手を見渡しながらかつ話すこと。
- ④ はっきりと、大きな声を出すこと。激しすぎてもいけないが、発表に動きを加えてもよい。

第8・9・10時 『プレゼンをしよう』(本時)

- ・ 前時の練習を生かし、全体の前でプレゼンをする。
- ・ 1つのグループが前へ出てプレゼンをする。残りのグループは判定員として参加し、評価のワークシートの用意をしてプレゼンを聞く。プレゼンが終わったら、質問をしたり意見を述べたりする。
- ・ プレゼン5分、質疑応答は5分、判定は2分の、1グループ計12分で行う。
- ・ 判定員が行う評価は、項目別に点数があり、合計で 点満点として評価する。
- ・ 判定員をする上での約束事を示す。 ↑※まだ、評価項目ができていないので空欄です。

- ① 私語を謹み、集中してプレゼンの内容に耳を傾けること。
- ② 質問や意見をすることは、発表後に与えられた時間内に挙手をし、はっきりと発言すること。
- ③ 平等な目で評価をすること。発表の後には拍手で頑張りを讃えること。

第11時 『プレゼンの結果を聞き、再び住んでみたい県を考えてみよう』

- ・ 最終的にグループから個人に戻し、結果や活動を振り返りながら最終的な思いをまとめる。
- ・ 最初の考えと比べて、自分の考えがどのように変わったか、なぜ変わったかを振り返り記録する。
- ・ 自分の考えを発表し合い、全体で意見の交流をする。

7 仮説と手立て

(1) めざす生徒像

- ・必要な知識を教科書や資料・文献から進んで収集して、その情報を取捨選択することができる生徒。
- ・目的意識を明確にもって、主体的に調べたり、伝え合ったりすることができる生徒。
- ・他者の考えを聞き、それを自分の考えと比べて考えを深めることができる生徒。

(2) 仮説

めざす生徒像にせまるために、次のような仮説を立てて、学習を進めていく。

仮説①

単元を通して目的意識をもたせ、「アピールをしよう」「プレゼンテーションで自分の調べた事に誘致しよう」というような、意欲をかき立てる学習課題を設定すれば、主体的に調べ学習をするとともに、様々な資料から必要な情報を引き出す力を身に付けることができるだろう。

仮説②

学んだことや調べたことを発表する場面を工夫すれば、学び取った知識を活用し、自分の考えや意見を簡潔に分かりやすく表現する力を身に付け、伝え合うことの楽しさや、他者の意見と自分の意見との違いについて、深く感じ取らせることができるだろう。

(3) 具体的な手立て

仮説検証のために、次のような手立てを考えて、学習を進めていくことにした。

仮説①に対して

手立て① 生徒の興味・関心を喚起するような学習計画を設定する。

生徒の興味・関心を喚起し、探求意欲が湧くような課題設定をすることで、調べる楽しさや学習に対する意欲をかき立てることができる。

手立て② プレゼンテーションの形態を取り入れることで、深く学ぶ場を設ける。

プレゼンテーションによる発表をするという目的をもつことで、「調べたことを分かってもらえる発表をしたい」という意欲が高まり、主体的に調べ学習ができる。

手立て③ まとめ方の例を提示する。

個性を出したまとめ方をすることは良いが、グループによってまとめ方にばらつきが出てしまう可能性があるため、教師がモデル図を提示し、発表内容に過不足がないようにする。

仮説②に対して

手立て④ 調べる時間の保証をする。

自分が担当するアピールポイントを調べ自分の言葉でまとめるための時間や、調べた内容をグループの仲間と話し合い、発表内容や発表原稿を考えるための時間を設定することで、計画的に学習が行える。

手立て⑤ プレゼンテーションの発表の仕方を練る時間の保証をする。

プレゼンテーションには様々なアピール方法がある。どのように発表したら、より良いアピールができるかを全体に考えさせて、意見を集める。そして、グループごとに工夫したプレゼンテーションをするように指示をする。そうすることで、各グループの持ち味が出るプレゼンテーションが展開できる。

8 本時の展開

(1) 本時のねらい (本時 9/11)

<発表者のグループ>

- ・調べ学習でまとめたことや自分の考えを、資料を使ったり、話し方を工夫したりして、分かりやすく伝えることができる。(技能・表現)

<その他のグループ>

- ・疑問に思ったことをメモしたり、質問したりすることで、自分の考えを整理したり深めたりすることができる。(思考・判断)

(2) 準備物

生徒・・・画用紙、模造紙、発表原稿、資料画像、資料動画、付箋

教師・・・タイマー、ベル、評価シート

(3) 学習の展開

自は自己肯定感を高めるための支援

時間	学 習 活 動	教 師 の 支 援 (※ 評 価)
導 入 5 分	1 学習課題とプレゼンの約束を確認する。 ・発表時間5分、質疑応答5分、評価2分。 ・私語を慎み、集中して聞く。 ・質疑応答は、挙手をしてはっきり発言する。 ・公正に評価をし、拍手で讃える。	・前時に発表の流れを話しておき、スムーズに学習に入れるようにする。 ・付箋を配り、疑問に思ったことや、発表者に聞きたいことを、メモしながら聞くように指示する。 ・発表を聞いて、自分の考えをもつことの大切さを確認しておく。 ・プレゼンの流れを画用紙に書いて提示し、約束を確認しながら進めるように促す。
展 開 4 0 分	2 プレゼンテーションを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> うちの県へいらっしゃい!! ~プレゼンテーションをして、住民を誘致しよう~ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・4番目 広島県 ・5番目 鳥取県 ・6番目 愛媛県 (1~3番は前時に発表済み) 【予想される質問】 <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県では世界のトヨタがあるので自動車産業が盛んですが、広島県の自動車産業はどういった様子ですか? ・日本海側は雪が降ることを前に学習したのですが、鳥取県の降雪量は年間どのくらいでしょうか? ・愛媛県はみかんが有名と紹介してくれましたが、愛媛県民のみなさんは、年間にどのくらいの量のみかんを食べるのですか? 	・意図的な指名のために、教師が司会をする。 ・5分経ったら1回ベルを鳴らし、時間がきたことを知らせる。6分でもう一度ベルを鳴らし、途中で終了とする。 ・視線を前に向け、全体を見渡して発表できた班や、良い表情をすることができた班、仲間と協力できた班、身振り手振りといった動作を使って伝えようとするのができた班を賞賛する。真剣に発表を聞いたり、疑問思ったことなどを付箋にメモしたりしている生徒も賞賛する。自 ※まとめたことを工夫して分かりやすく発表することができたか。(技能・表現) ・質疑応答の場面では、メモしたことの内容をもとに、発言をするとよいことを助言する。

<p>展開 4 0 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県は、交通死亡事故1位という残念な状況ですが、広島県の交通事情が気になります。事故は多いのでしょうか？ ・ゆるキャラを紹介してくれましたが、この他にも、まだ数種類いるのでしょうか？ <p style="text-align: right;">など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の内容に対して、同じ意見をもった生徒が他にいるかどうか聞き手側に確認するなどして、共感的な態度を育てる。また、対立する意見による深め合いも大いに賞賛する。[自] ・発表者には、前もって質問される可能性がある内容を予想させておく。答え切れなかった質問や、付箋の質問については、プレゼンの学習後までにその答えを用意して、後日回答をするとよいことを伝える。 <p>※疑問に思ったことをメモしたり、質問したりして、考えを整理したり深めたりすることができる。 (思考・判断)</p>
<p>まとめ 5 分</p>	<p>3 発表の内容や、質疑応答のやりとりを振り返りながら、本時の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇県のことを、具体的に知ることができた。愛知県と似た部分が多いことや、環境の面で過ごしやすいことを知り、興味をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞き、新たに知ったことや、興味をもてたことを書くように、声掛けをする。 ・感想を発表した生徒に拍手を贈るなど、賞賛する場面を設定する。

(4) 評価

	発表者のグループ (技能・表現)	その他のグループ (思考・判断)
A評価	<ul style="list-style-type: none"> ・声の強弱をつけたり、身振り手振りを交えたり魅力的な資料を用意したりして、アピールしたいポイントを明確にした発表ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて、疑問に思ったことを発表し、質疑応答などを通して、自分の考えを整理したり深めたりすることができた。
B評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が担当する県のアピールポイントを発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて、疑問に思ったことを付箋などにメモしたり、発表したりすることができた。